

## EVI グローバルEVパイロットシティプログラム（PCP）について

国際エネルギー機関（IEA）の呼びかけにより、EV・PHV・FCVの普及促進に先導的に取り組む世界の自治体間の交流と協力を促すことを目的として、平成30年5月24日（木）に「EVI<sup>(注)</sup> グローバルEVパイロットシティプログラム（PCP）」がスタートしました。

愛知県は、このPCPの取組に賛同し、初期メンバーとして参加することとし、IEAが行うPCPスタートのプレスリリースに知事メッセージを掲載しました。

また、PCPの最初の取組として、フィンランド共和国ヘルシンキ市で開催される「EVIパイロットシティフォーラム2018」（以下、「フォーラム」という。）に職員を派遣し、本県のEV・PHV・FCVの普及促進とそのインフラの整備について事例発表をしました。

(注)EVI：電気自動車イニシアティブ。平成21年にCEM（クリーンエネルギー大臣会合）の下に設立。平成29年12月時点で、日本を含む13か国が参加し、電気自動車（EV・PHV・FCV）の普及促進に取り組む。

### 1 PCP参加に当たっての知事メッセージの内容

PCPのスタートに当たり、平成30年5月24日（木）にIEAがプレスリリース(<https://www.iea.org/newsroom/news/2018/may/global-ev-pilot-city-programme-launched-at-clean-energy-ministerial.html>)を行いました。

このプレスリリースにおいて、以下のとおり、PCP参加に当たっての愛知県知事メッセージを掲載しました。

#### 愛知県知事のメッセージ

##### （英文）

Aichi Prefecture which has the largest industry in Japan is aiming to be a leading prefecture with regard to the environment.

Therefore, we are promoting next generation vehicle (including EVs, PHVs, FCVs and so on) and infrastructure, cooperating with stakeholders.

Hideaki Ohmura, Governor of Aichi Prefecture

##### （日本語訳）

日本一の産業県である愛知県では、環境面でもトップランナーを目指しています。このため、環境負荷の少ない次世代自動車（EV、PHV、FCV等）の普及を、その環境整備を含め関係団体と協働で推進していきます。

### 2 フォーラムへの出席

PCPの主要なネットワーキングイベントとして、今年度は主にEVの充電インフラをテーマとして開催されるフォーラムに職員が参加し、事例発表を行いました。

#### （1）開催期間

平成30年5月28日（月）から29日（火）までの2日間

## (2) 場所

フィンランディアホール（フィンランド共和国ヘルシンキ市）

## (3) 派遣職員

地球温暖化対策課長始め2名

## (4) 主な出席者

ヘルシンキ市始めP C P構成自治体、国際エネルギー機関（I E A）等  
（日本からは、経済産業省、愛知県及び神奈川県が出席）

## (5) 主な日程

月 日	主な内容
5月28日（月）	・ 本会議 ・ 分科会（国際的事例） 愛知県を含む出席者からの事例発表 ・ 今後のP C Pの取組について議論
5月29日（火）	・ 現地視察 カラサタマ地区（ヘルシンキ市内のスマートシティ実験地区）等

## (6) 愛知県の事例発表内容

### ①発表テーマ

「EV・PHV・FCVの普及促進とそのインフラの整備について」

### ②発表要旨

- ・ 愛知県では、「あいち自動車環境戦略2020<sup>(注1)</sup>」に基づき、環境負荷の少ないEV、PHV、FCVの普及を促進している。
- ・ EV等の普及に必要な充電インフラについては、「愛知県次世代自動車充電インフラ整備・配置計画<sup>(注2)</sup>」に基づき、適正配置となるよう充電インフラの整備を促進している。
- ・ 現在、愛知県の全市町村に充電インフラが整備され、その整備状況は、国内トップクラスの設置基数・箇所数となっている。
- ・ 今後も、EV、PHV、FCVの普及とそのインフラの整備を促進していく。

（注1）：本県の自動車環境の改善と向上のため、県民、事業者、行政等の取組を示した計画（平成25年3月策定）

（注2）：今後のEVの大量普及に向け、一般開放された充電インフラの適正配置による整備を促進するための計画（平成25年7月策定）

## (7) 他の事例発表内容

詳しくは下記のホームページをご覧ください。

URL：<https://www.iea.org/workshops/cem---evi-pilot-city-forum-2018-event.html>

## <参考>「EVI グローバルEVパイロットシティプログラム（PCP）」について

### 1 経緯

平成29年6月に第8回クリーンエネルギー大臣会合（CEM8）で打ち出されたEVIのEV30@30キャンペーンの目標<sup>(注)</sup>達成のための取組の一つとして、平成30年5月24日（木）にCEM9（平成30年5月22日（火）から5月24日（木）まで デンマーク王国コペンハーゲン市で開催）においてスタート。

（注）：2030年までに、全ての自動車（バス、トラック含む）を対象として、新車販売シェアに占める電気自動車の割合を、参加国全体で30%以上とすることを目指す。

### 2 目的

EV・PHV・FCVの普及促進に先導的に取り組む世界の自治体間の交流と協力を促す。

### 3 事務局

国際エネルギー機関（IEA）

### 4 構成メンバー

別紙の9か国30都市（平成30年5月24日時点）

## PCPの構成メンバー 9か国30都市（平成30年5月24日時点、「未定」除く）

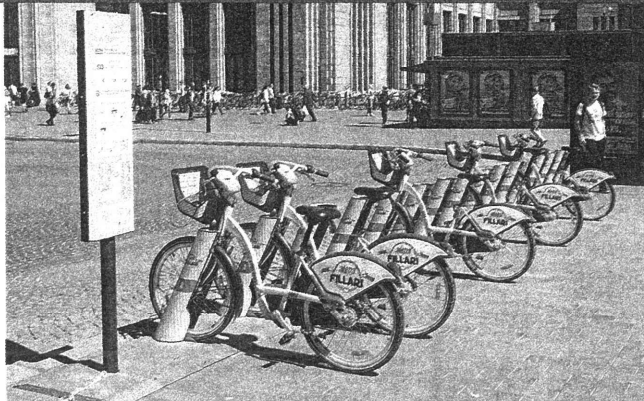
国 名	団 体	
日本	愛知県	Aichi Prefecture
	神奈川県	Kanagawa Prefecture
	京都府	Kyoto Prefecture
	東京都	Tokyo Metropolitan Government
カナダ	カルガリー	Calgary
	ハリファックス	Halifax Regional Municipality
	モントリオール	Montreal
	ストラトフォード	Stratford
	サレー	Surrey
	リッチモンド	Richmond
	ウィニペグ	Winnipeg
中国	北京	Beijing
	如皋（じょこう）	Rugao
	上海	Shanghai
	深圳（しんせん）	Shenzhen
	塩城	Yancheng
フィンランド	ヘルシンキ	Helsinki
	エスポー	Espoo
	オウル	Oulu
	タンペレ	Tampere
	ヴァンター	Vantaa
オランダ	アムステルダム	Metropolitan Region Amsterdam
	ユトレヒト	Utrecht
	ハーグ	the Hague
	ロッテルダム	Rotterdam
ニュージーランド	クライストチャーチ（未定）	Christchurch
ノルウェー	ベルゲン（未定）	Bergen
	オスロ	Oslo
スウェーデン	ストックホルム	Stockholm
タイ	ベトン（未定）	Betong
	ノンタブリー（未定）	Nonthaburi
イギリス	ダンディー	Dundee
	ロンドン	London
アメリカ	ニューヨーク	New York City

## 県が国際プログラムに参加



街の中心部に設置された充電スタンド

市街地に設置された貸自転車ステーション



## フィンランドで見た先進事例

電気自動車(EV)など環境性能に優れた乗用車を普及させる国際自治体組織「グローバルEVパイロットシティプログラム(PCP)」が五月下旬に発足し、県が初期メンバーとして参加した。フィンランド・ヘルシンキでの初会合に派遣された県職員らは、環境都市を目指す同国の先進事例を目の当たりにした。

(谷悠己)



停留所で充電するカラサタマ地区のEVバス

### PCPの主な初期メンバー

日本
東京都、神奈川県、京都府、愛知県
カナダ
カルガリー、モントリオール
中国
北京、上海
フィンランド
ヘルシンキ
オランダ
アムステルダム、ユトレヒト
ノルウェー
オスロ
スウェーデン
ストックホルム
英国
ロンドン、ダンディー
米国
ニューヨーク

# 意識と設備 驚きの環境都市

ヘルシンキ南部のカラサタマ地区。かつて環境負荷のかかる石炭火力発電所が稼働していた臨海工業地域を、二〇〇九年の事業開始から三十年で二万五千人が集住する環境先端都市に生まれ変わらせるプロジェクトが進行している。

「街角に落ちたごみを全く見かけなかった」。五月二十九日に現地を視察した県地球温暖化対策課の伊藤暢浩課長は振り返る。

集合住宅のごみ捨て場はIDカードで開閉し、道端のごみ箱には量を感じて収集車に知らせるシステムが導入されるなど、ごみをあふれさせない仕組みが随所に施されていた。

北欧諸国で進む交通機関への環境配慮も体感した。カラサタマ地区ではバス路線の一部がEV化され、バス停に充電設備を完備。ヘルシンキ中心街では目抜き通りの路肩に自家用EVの充電スタンドが設置されていたほか、「最も環境に優しい交通手段」の自転車を利用する人の多さに驚いたという。

主要な通りのほとんどに自転車専用レーンが併設され、カード式の貸自転車ステーションも街全体に配備。主要交通手段として自転車を利用する人は9%に達し、乗用車(22%)と比べても割合が高い。伊藤課長は「市民全体の環境意識の高さを感じた」と話す。

伊藤課長ら二人は視察前日の五月二十八日、国際エネルギー機関(IEA)の提唱で九カ国三十地域が参加したPCPの初会合に出席。県内のEVとプラグインハイブリッド車(PHEV)の累計保有台数は昨年末時点で計二万二千台で、二〇年度までに県内に二千基の充電スタンド配置を目指す計画を発表すると、各国関係者から配置の間隔やさらなる将来計画についての質問が上がったという。

市内を走るタクシートの10%がEV化されている英国ダンディー市が将来的に100%を目指す方針を発表するなど、他の国も積極的に取り組んでおり、県は今後取りまとめられる会合報告書を分析し、県内でも実現可能なアイデアを取り込んでいく。



IDカードで扉が開閉するごみ箱

写真はいずれもフィンランド・ヘルシンキで=県提供



# EVパイロットシティフォーラム2018

(平成30年5月28日～29日@フィンランド共和国・ヘルシンキ市)

フォーラムの全体会議



フォーラムの分科会



EVと充電器①



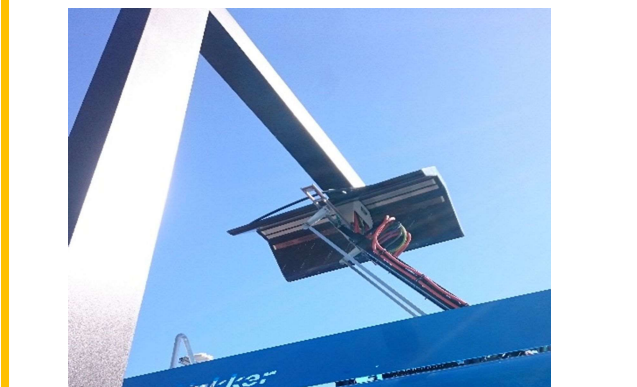
EVと充電器②



市内を走るEVバス



EVバスの充電器



自転車道と歩道



自動運転のバス（カラサタマ地区の実証試験中）

